

口永良部島への離島巡回診療を終えて

宮本 昇

2011年5月9日～11日の期間、口永良部島での離島巡回診療に同行させて頂きました。私は、以前から僻地医療に興味がありました。離島には、歯科医師が不在の地域があり、鹿児島大学歯学部では、県歯科医師会により定期的に行われている離島巡回診に参加していると知り、今回の参加を希望しました。

口永良部島へは、私たちの行ったコースでは、鹿児島南埠頭から屋久島までフェリー屋久島Ⅱで4時間、屋久島で乗り換えた後フェリー太陽で1時間半の、片道計5時間半の船旅で行くことが出来ます。台風1号が近づいてきていたこともあり、滞在期間は予定よりも1日短くなってしまうという離島ならではのハプニングもありましたが、それも含めて離島の生活環境から医療環境まで多くのことを実感することができました。

当初は、1日目にチェアの設置等の準備、2・3日目に終日診療、その後片付け、4日目に帰鹿という予定でした。しかし、台風が近づいてきている情報が事前に入ってきていたので、15時頃口永良部島に到着し、その直後から急ピッチで準備を始め、初日から診療を行いました。そして、2日目は予定通り午前・午後と診療、診療後に片付けを行い、3日目に帰鹿しました。4日間で行う予定の全てのことを3日間に短縮して行ったので、スケジュール的にはやや多忙な3日間でありました。それでも、受診希望者へは全員、診療・治療することができたので良かったと思います。

口永良部島には歯科医院が無いので、県歯科医師会より運転してきた診療バス『こじか号』と、現地にある椅子と持参した道具で急設した2台のチェアで診療を行いました。参加する以前は、専用チェア等の無い環境でどこまでの治療ができるのだろうか、と考えていました。滞在期間が限られているため、インレーや義歯作製など数回の来院を要する治療こそ行えませんが、実際に行われている治療は、普段大学病院で行われているものと同様で、質の高い治療環境の再現に驚きました。鹿児島から持参した器具や道具は、離島診療用に改造されていたものも多く、長年の離島巡回診療の経験とシステムが、現在へと受け継がれていることを感じました。そして、診療を通し、来院できる回数が限られている場合の治療法の選択や応急処置など、普段の病院実習では学ぶことのできないことを学ぶこともできました。

また、現地の方々と触れ合い、話をする中で、半年に一度の巡回診療に対する期待の高さを知りました。身近に歯科医院が無く、気軽に受診のできない環境の話聞くことで、歯科医師の社会的貢献度の高さや重要性を改めて実感しました。それと同時に、半年に一度の巡回診療があるものの、それ以外の手段は1時間半かけて屋久島まで行くしかなく、口永良部島の方々の歯科医療環境の改善されることが望まれます。

最後に、今回、非常に貴重な経験をさせてくださった、鹿児島大学歯学部とスタッフの方々、そして口永良部島の住民の方々に感謝の意を申し上げたいと思います。今回学んだ

ことを生かし、今後一層の研鑽に精進して行く所存であります。

今回の離島実習は台風接近の影響で予定よりも1日早く帰ることとなりました。この点は船でしか行き来ができない離島特有のことであると思います。

到着した初日から診療を開始し、診療車とポータブル診療チェアの2台のユニットに成人系と小児系で口腔外科の先生、小児歯科の先生がそれぞれ担当して診察を行いました。

成人系の場合にはまず問診票に記入をしてもらい、それをもとに口腔内所見、歯式をとり治療をしていました。治療内容としては抜歯、義歯調整、リラインなどを行っていました。

小児系の場合も成人系と同様に問診票に記入をもらい、それをもとに口腔内所見、歯式をとりレントゲン撮影を行い、う蝕の進行度を判定していました。

今回は小児の患者さんが多く、う蝕の進行度も重度なものが多数見受けられたこと、また学校などを考慮し、ブロックに分けて何回か治療を行うこととしていました。ラバーダム防湿を行い、コンポジットレジン充填、抜歯、抜髄、乳歯冠装着、サホライド塗布、シーラント、フッ素塗布などを行っていました。

診療車にはほぼ一般の歯科医院と同等の設備が備わっており大変驚きました。しかし、台風が近づいているなどの天候に完全に左右される船が唯一の移動手段である離島特有の状況のため、予定が大幅に変更してしまい、患者さんを長い時間待たせてしまうということになってしまいました。この辺りの天候の変化等も想定に踏まえ、効率よくできないか検討が必要であると感じました。

また、口永良部の島の方の認識と治療を行う側の認識にズレのようなものを感じました。このため実際にこの島の方々がどのような歯科治療を求めているのか、それに対して治療を行う側はどれだけ応えることができるのかを一度議論する必要があると感じました。

さらに、今回の実習では特に小児のう蝕に重度な進行が多く見られました。このため、保護者や子供たちに食事指導、ブラッシング指導、保護者による仕上げ磨きなど、普段から取り組むことのできるデンタルケアなどの指導をしていく必要もあるのではないかと感じました。また、見学で同行した学生の私たちにもできることを考え、普段授業や実習を通して得た知識などを最大限に生かして、講話会などできることがないだろうかとも感じました。

今回初めて離島実習という形で離島診療に帯同させていただき、実際に自分の足で何時間も船に揺られながら向かい、自分の目で現場を見させていただき多くのことに気付かされました。このような経験は普段の座学では決して学ぶことや理解することはでき

ません。このことは離島自習を行っている鹿児島大学の大きな特色であるとも感じました。この貴重な経験を大きな糧として、歯科医を目指して日々邁進していきたいと思えます。



離島実習を終えて

大村 崇維

今回離島実習で口永良部島に行ってきました。屋久島まで四時間かけて行き、そこで船を乗り継ぎ、乗さらに一時間半かけて辿り着きました。

口永良部島に着いた時には船酔いでふらふらでしたが診療所まで歩き診療台を設置し、近くの公民館で講話の準備をしました。準備が終わった所で民宿に行き夕食を頂き、講話のため公民館に戻りました。講話には、10人ほどの方が参加していて、熱心に話を聞いていました。最後に参加されていた島民の方と少しだけ話をしたのですが、色々と歯のことについて聞かれて、やはり島に歯科医院が無いと情報が入ってこなくて大変だろうと感じました。講話の後にはいきなり、島民の方に誘われて宴会に連れて行かれ、島ならではのもてなしを受けました。

翌日から診療所で診療が始まったのですが、やはり普段学校で行っている診療とは違うことが多く、驚きました。その日の内に治療を終わらせなければならない点、限られた器具だけを用いて処置をしなければならない点、アシストをするにしても普段と違う場所に器具があったり、急にタービンの水が止まったりといろいろ大変でしたが、学校で行う実習よりも近くで患者さんに接することができ、実際に口の中を診る機会が多く色々させてもらえて楽しかったです。

初日に診た患者さんが翌日診療所を訪れた時に、「昨日は良い歯をいれてもらってよかったです。ありがとうございました」と感謝の言葉を受けた時は離島実習に参加して良かったと思いました。診療を終えた後は、島の温泉、民宿での美味しいお酒と食事に癒やされました。

三泊四日の日程で、診療をしたのは二日間だけでしたが、やはり島の人にとっては離島診療は本当に必要とされていると感じました。今回その診療に参加することができて本当に良かったです。今後、今回の経験を大学病院での実習に活かしていきたいと思います。

